発信力や表現力を伸ばす指導法について

秋田県立角館高等学校　教諭　大塚　繁太郎

１．はじめに

私が授業で意識していることは二つある。一つ目は、自律した人間の成長、二つ目は、楽しく学ぶということである。現在のVUCA (Volatility, Uncertainty, Complexity, Ambiguity)の時代に生徒は、自ら課題を見つけ、試行錯誤を繰り返しながら、仲間とともに新しい価値を作らなければならないからである。そのためには、学校では、失敗から何かを学ぶ習慣が重要であり、生徒が楽しんで自ら進んで物事に取り組む環境を作る必要があると考えている。

私は、角館高校でアクティブラーニングとアウトプット活動を活かすことに重点を置いて取組を重ねてきた。分かったことは、目的が明確ならば、生徒は驚くほど成長するということ、教員自身が挑戦する姿を見せ続けるとそれに反応して生徒はまた成長するということだった。合い言葉は、「失敗しても大丈夫、そこから学んでいこう」であった。この場をお借りして活動例をいくつか紹介してみたいと思う。

２．アウトプット活動例

（１）１分間スピーチ　（ペアワーク）＊目的は、ディベートで３分半語れるようになること。

（手順）１．授業に関連するトピックを設定し、リンクマップを作成し、自分の考えを英語で語る。
２．ワードカウンターシートを用いて、発話量を数値化する。

（効果）１．生徒はスピーチの構成を学び、何を考え、何を語るべきなのかが明確になる。
小論文や面接の指導もしやすくなる。
２．話すことが書くことの質を向上させる。実用英語技能検定でもライティングの成績が大きな得点源になり、２級合格者が増加した。文法事項の間違いの改善もしやすくなる。
３．他者への自己開示が信頼関係の構築となり、授業態度の大きな改善が見られた。

（指導上の留意点）
１．AREAとConclusion Comes Firstの概念を徹底する。
（AREA =Assertion, Reason, Example, Assertion）
２．文法間違いを指摘しすぎない。（１）内容の評価（２）良い点の提示（３）改善点の提示が学習意欲の向上に直接的な影響を与え、前向きに取り組む態度が向上する。

（２）一文発話トレーニング（ペアワーク）

（活動の仕方）　教師がワード数を決める。生徒は、主語と動詞を使って英文を発話する。
＊文法事項を指定し、ワード数を増やして英文の情報量を増やせるように負荷を上げていくと、生徒の英文の質が向上する。

（効果）１．英語の構造に慣れる。（ALTから主語と動詞は必須だと指摘があった。）
２．発話できるようになると、スペルのミスはあるが、英文を書けるようになる。
３．英語脳の育成に大きな影響があった。生徒にとってはとても楽しい学びであった。

（３）教科書の表現を使った活用練習（グループワーク／ペアワーク）

（手順）１．リスト内の単語を使って交互に一文ずつ英文を発話し、１分間の英文の合計数を競う。
２．グループワークの際には、第三者にペアの活動を評価してもらう。

（効果）１．単語や熟語の活用機会が増え、表現の定着率が上がる。
２．文法事項の復習ができる。特に、主語＋動詞の形を作る訓練ができる。

３． 教科書を読むとなったときに、分かる単語が増えるため、読解活動がスムーズになった。

（４）Free Story Telling 活動（ペアワーク）

（手順）１．教科書の単語リストを使って、自由に物語を作り、30秒、１分と英語で語らせる。
２．ペアを替えながら、発表し、修正の時間を設けながら実践する。
３．聞き手にコメントさせ、良い点と改善点を述べさせる。

（効果）１．英文を数多く発話することができ、英作文力の向上に効果がある。
２．文章構成力など思考力が向上する。前述のトレーニングとの相乗効果で英語の発話量を大きく増やすことができる。
３．自由度が高い活動なので、伝えようとする意欲が高まり、工夫する習慣が芽生える。
４．授業で生徒の笑顔ややる気に満ちた姿が増えた。英文を書かせる場面でもその分量は格段に増加した。話すことと書くことのつながりは非常に大きいと感じている。

（５）Information Gap（ペアワーク）

（手順）生徒A：単語リストを見て、語句の説明を英語で行う。ただし、その語句自体は言わない。
生徒B：単語の内容を推測し、答えていく。

（効果）１．創造力、推測力、多様な視点で物事を捉える力を育成できる。
２．既習事項の定着や活用力の強化に役立つ。また、即興性が高く、パーソナライズできる活動であるため、やり取りの力やより自然な英語運用力の養成に役立つ。

（６）しりとり英文（グループワーク）

（手順）１．教師側から英文を一文提示する。
２．生徒Aが英文を読む。生徒Bは、生徒Aの英文内の単語に着目し、それを使って関係する英文を発話する。生徒Cは同じことを繰り返す。
＊順番に発話させてもいいし、次の人を指名させるなど、変化を出してもいい。

（効果）１．論理的に文章を構成する習慣や、即興で英文を作る習慣を身に付けられる。
２．複数の生徒の前で発表する機会や自分で単語を選択する機会となる。生徒は失敗から学べるため自律して行動する手助けとなる。

（７）プレゼンテーション活動

（活動の仕方）
１．レッスンのパートが終わる度に、簡単なスライドを作成する。
２．リテリングと自分の考えを組み合わせて、合計２分間のプレゼンテーションを行う。
３．聞き手からのランダムな質問に英語で答える。質問は日本語でもかまわない。
４．聞き手からコメント（良い点と改善点）をもらい、役目を交代する。

（効果）
１．自分で考えて、工夫し、自己開示を行うため、生徒の自己肯定感は大いに向上する。
２．生徒個人の能力に応じた学びが進められ、教科書の内容把握への意欲が向上した。
３．３年生になり、長文読解に粘り強く取り組む姿勢が大いに見られた。
４．リスニング力が飛躍的に向上した。友人同士の学び合いが大きく関係している。

３．リスニング活動

（１）Listen & Talk

（活動の仕方）ペア活動　＊目的は、相手の言っていることの概要を理解できるようになること
１．音声を放送し、ヒントなしでメモを取り、放送終了後に互いに内容について話し合う。

２．写真等を提示して、再度音声を聞く。マルチタスクでリスニングを行う。メモを取り直し内容について話し合う。その後、クラス全体もしくは周囲の生徒と情報を共有する。

（効果）

１．リスニング力だけでなく、推測力の強化につながる。

２．教科書の英文解釈の時間が短くなった。楽しみながらリスニング強化に繋げられる。

３．メモを取る習慣ができ、絵や写真を使用するとマルチタスクへの対応力を伸ばすことができる。

４．互いに補い合える凸と凹の関係を作ることができ、生徒が自信を持って学習に取り組める。

（２）Dictation

（活動の仕方）１文を聞いて、英文を書き取る。生徒のリクエストに応えて繰り返し行う。

（効果）１．英語のスピードや音の繋がりに慣れることができ、正確に聞き取る訓練となる。

２．英単語と音とのギャップが埋まり、リーディング力育成につながった。

４．評価について

前任の先生が残したスピーキングパスポートが非常に役に立った。活動して終わりではなく、授業内の様々な活動で達成したことをポイント化することができた。もう一つは、様々な活動の中で見取り評価を積み重ねることで、観点別評価実施への道筋ができた。

発話量は、ワードカウンターシートが有効だった。「自分自身が話している英語はどのくらいの分量なのか」「友人はどのくらい話しているのか」、それらを数値化することは、スピーキング活動だけでなく、学びのモチベーションを高める良い指標となった。単純に、何words話したのかが分かり、その変化の推移も一目で分かるため非常に効果的であった。１年生で１分間25wordsしか話せない生徒が、３年生になり70wordsを超える分量を述べられるようになり、その内容も格段に良くなった。

５．PDA即興型ディベート

私の授業のヒントは、すべてここから生まれている。「３分30秒話し続けるにはどうしたらいいのか」「分かりやすいストーリーを作るにはどうしたらいいのか」「POIをするには、POIに対応するにはどうしたらいいのか」「反駁とは何だ」など挙げたらきりがない。教員向けの研修でも散々打ちのめされ自信を失った。しかし、それ以上に希望の光を見た。全国の高校生が目を輝かせてディベートにのめり込み、新しいことを学ぼうと挑戦している。そんな勇猛果敢な姿を秋田県でも見たいと切に願っている。

「知の循環」と「自律した人間の育成」これこそが教育が目指すべき方向性である。ディベートがすべてではないが、ディベートはこの方向性に合致した取組の一つであることは間違いない。インプットとアウトプットの両方を行い、多くの仲間と切磋琢磨しあい、失敗しても学びを深められる道がディベートの中にある。その取組を少しでも広められればと思っている。

６．まとめ

角館高校に赴任して、ディベートに出会えたことは幸運だった。全国での取組は、参考になることが非常に多い。それらを活用した結果、生徒は学習者として、一人の人間として格段に成長を遂げていった。まだまだアウトプット活動の良さは浸透していないが、いずれ従来のやり方とのハイブリット型ができあがれば、生徒の成長を格段に促すことができると確信している。教員の学びの時間は非常に大切である。生徒に求められている力が変化している以上、やり方をアップデートすることは必須だと思う。これまでの実績は大切だが、積極的に捨てていこうと思う。何が起こっても不思議はない時代になったので、常に学び続けて、知の獲得、知の循環に向けて努力していきたい。

CLASS NO NAME

LET'S BEE EXPRESSIVE!

英会話パスポート